

人々の心と生活を豊かにする
素材であり続けたい

丸進工業 株式会社

710-0146 岡山県倉敷市曾原439
<http://www.hanpu-ya.com> 086-485-1211

在籍する職種 営業 / 企画 / 事務 / 技術職 / 縫製 / 品質管理

伝統を活かした一級品・倉敷の帆布を全国へ。

1933年に武鏡織布株式会社の創立者である武鏡石五郎と梅夫妻の三男の進衛が丸進工業株式会社を創業しました。綿の需要が最も多かった時期に「児島地区を帆布の生産地にしたい」との思いから本家より分家し織布業を始めました。丸進工業は古くから工場内に糸作りの工程を持ち、「撚糸の品質の均一を図る」という創業者の思いを受け継ぎ、現在でも撚糸から製織までを一貫生産しています。より厳格な旧JIS規格に基づいた独自の品質管理と職人の細やかで卓越した技の積み重ねにより一級帆布の最高品質を実現し、国内外のブランドからも多くの評価を得ています。丸進工業では、昭和40年代に製造中止となった希少なシャトル織機60台を使用し、織り上げているため、風合いが良く、温かみのある手触りの帆布が生まれるのです。近年では、白生地機屋にとってタブーとされていた先染めの糸を使って帆布を織り上げることに挑戦。通常、帆布は白糸で織り上げてから色に染める「後染め加工」が主流ですが、先染め糸を使ったオリジナルのストライプ柄の帆布は、プリントでは出せない質感を表現することができ、今で

は丸進工業の大きな特徴のひとつになっています。

昭和50年代後半までは、傷の少ない白生地を作ることを最重要視していましたが、良い素材を作るだけでなく、付加価値をつけて最終製品を作りたいという思いから、平成9年には「はんぷ屋」事業部を開設しました。長年作り続けてきた日本の帆布の風合いを生かし、それが製品化され、多くの人に知られるようになったことは現在のものづくりの糧になっています。



2021年4月1日、バッグや生活雑貨を手掛ける関連会社「倉敷帆布株式会社」の社名変更を記念して作られたトートバッグ。基本に立ち返り、厚手の4号帆布でシンプルに仕上げました。生地の織り幅で型取ったデザインは、裁断ロスがほとんどない「エコ」なバッグ。1日に1台の機械で50メートルしか織り上げることのできない貴重な生地を、大切に使いました。